

私のピグマリオン教育

2010年・2011年の実践を中心に

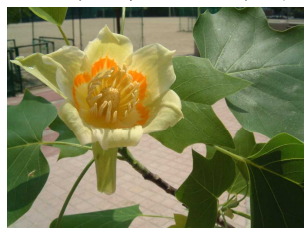
高田廣司

エピソード1 ～記念樹～

20年前、開校して間もないこの中学校に私の長男が入学しました。2年後に私の転居で転校しましたが、不思議な縁で、この学校が私の最後の赴任校となりました。

入学式中庭で撮った記念写真の息子の後ろには、開校記念に植えられた、まだ苗木のユリの木が写っています。

20年を経てその苗木は校舎の屋上まで届く大木に生長して、この中学生はすでに社会人となり、その父はこの学校で定年を迎え年金生活者となっています。



成長して毎年初夏には白い花を付けるユリの木は、この親子に流れた歳月を語る文字通りの記念樹になりました。



エピソード2 ～言葉の力～

私が赴任したとき、学校が少し荒れていて、壊されてばかりだったトイレのスイッチに張り紙をしました。「スイッチはやさしく」の言葉を書きました。壁は何度も塗り替えられましたが、その後7年間、このスイッチは一度も壊されることもなく、張り紙もそのまま残りました。学校を去る時の思い出に写真をとりました。「プラスイメージの言葉」は「〇〇禁止」「〇〇しない」の張り紙より効果があったようです。



エピソード3 ～教室の二人～

スタジオジブリのアニメに「耳を澄ませば」という作品があります。中学生の成長の様子がさわやかに描かれていて、テレビでも何度も放映され、私も生徒たちに視聴を薦めていました。そして美術部の生徒に頼んで教室の後ろの壁に、その一場面を掲示物で再現しました。クラス目標を大書して学級に掲げるのも悪くはありません。しかし私はこの二人に、私の思いを語らせようとしたのです。文字よりもイメージからの連想が効果的だと考えたのです。「ここにいたのかい？ 気づかなかった？」二人のセリフです。



エピソード4 ～A君の思い出～

卒業アルバムから選んだ写真を組み合わせました。右上のセピア色で区別した写真の後列の端に背丈の合わない生徒が一人、隠れるように写っています。二年生の彼は、一時もじっとしていることができず、担任だった私は一計を案じ、彼を合唱コンクールの



舞台では最後列に隠すように配置しました。

そして一年後、退職した私は保護者席で合唱コンクールを見ていました。するとどうでしょう。彼はすっかり落ち着いた生徒になり、合唱コンクールではクラスの指揮者をして

いるではありませんか。
「三年生になって先生の予言通り、あの子すっかり変わったよ。」二年生の時、私のクラスだった合唱部の女子生徒が休憩時間に私を見つけ、そっと教えてくれました。

私の予言とは、1年前、授業中もおしゃべりをしてしまう彼について、こんな予言をクラスの生徒たちにしたのです。「みんなも少し困ってるようだが、私はみんなと賭をしてもいい。A男は一年後にはすっかり落ち着いた生徒になる。本人にも分からないだろうが、経験豊富な私には分かるんだ。」ピグマリオン効果と暗示効果をねらった言葉でした。

エピソード5 ～マイフェアレディー～



校則やきまりで管理された学校生活ですが、無理だと思える生徒たちの願望も、先生が付き添ってやれば実現できることがあります。AKB同好会の彼女たちは文化祭で歌って踊り喝采を浴びましたが、そして翌年、顧問を引き受けていた私が去るのを待っていたかのように規制が厳しくなり、文化祭での盛り上がるステージ発表は、なくなりました。私の育てたマイフェアレディーたちは今どうしているのだろうか。



エピソード6 ～見守る～

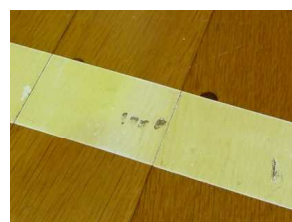
新任の青年教師です。私と1年間一緒に担任をしました。横に写ってる女性教師は初任者研修担当の指導教官ですが、実は彼女はこの数年前、JDP 研の心理教育セミナーで、ピグマリオン教育の講義を受講した先生でした。

この青年教師は翌年一人担任としてクラスを持ちました。うまくいかないことも色々あったようですが、3月に退職する私に手紙をくれました。「いつか、生徒を"見守る"ことができる教師になります」と書かれていました。ピグマリオンマインドを少しわかってもらえた気がして、嬉しくなりました。



エピソード7

卒業後も交流を続けている教え子があります。昨年の秋、彼と母校の文化祭を見に行きました。昼食時間で人気の無くなった体育館で、彼は私を舞台下まで連れて行き、床のラインに残った傷跡を教えてくださいました。彼が中学2年生の時、文化祭の学年合唱のリハーサル中、体調を崩して意識を失って倒れたときの歯形でした。この時から彼は健康に自信を失い、体調不良をうったえて遅刻したり保健室で休んだりが増えていきました。しかし、成績も優秀で生徒会副会長と言うことで、卒業式で在校生代表として送辞を読むことになりました。体調が不安定で休みがちになっていた彼だったので、学年主任だった私は少し心配でしたが、彼はなんとか本番は立派に任務を果たすことができました。



「あの時、送辞読むのが怖いつて言ったら（倒れたりしないかで）『ヒトは日々成長して強くなるから心配いらんよ』って先生が言ってくれたの、よく覚えてますよ。あの言葉で気が楽になりました」と。私は忘れていましたが、彼は覚えていたのです。『日々成長することに確信を持つ』 ピグマリオンマインドです。

エピソード8 ～教室雑感～

私は学年通信に「教室雑感」というコラムを連載していました。カウンセリングマインドやピグマリオンマインドを生徒や保護者にさりげなく伝導する方法として重視していたのです。



～教室雑感～

私の聞き違いだったのかも知れませんが、始業前、理科室に向かう私の前を一人の小柄な女子生徒が歩いていました。部活の朝練習が終わったところなのでしょう、通学バッグの他にエナメルバッグや手下げ袋を抱えていました。そして、その生徒は荷物が重かったのか、ちょっと立ち止まると肩のカバンを掛け替えながら「がんばれ！」とつぶやいたのです。まわりには誰もいませんでした。

「がんばれ！」は他人を励ます言葉です。しかし「がんばれ！」は自分に使っても良い言葉なのです。それを知ってから私も、元気が出ないときは「がんばれ！」と自分に声をかけます。すると不思議なことに少し力がわいてくるのです。

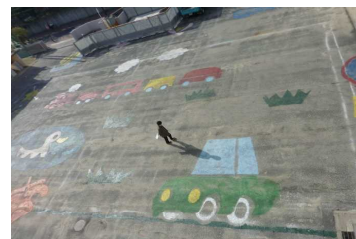
エピソード9

模型好きの卒業生たちが、春休みに理科室に集まって作っていました。思い出の校舎を形にしておきたかったのでしょう。生徒たちにとって学校とはそういう所なのですね。



エピソード10 ～思い出の形～

年月を経て、ほとんど消えかかっていたアスファルトの絵が、春休み前、一晩で書き直されました。ミステリーのような出来事でした。後年真相を知りました。卒業式を終えた三年生の有志が、お金を出し合ってスプレー塗料を買い、夜中にこっそりと塗り直したのだそうです。私の教えた生徒たちでしたが、私には何も知らせずに卒業していきました。もうお礼を言うこともできません。



エピソード11 ～カードの力～

退職1年目の私ですが、教え子たちの卒業式に参加しました。卒業式の後で見せてもらって知ったのですが、一人の生徒が私の写真を生徒手帳に入れて持っていてくれました。彼は勉強のできる生徒でしたが、友達づくり



岡野 Youth 作 サミエール つんまん 翻訳 藤野アツ
岡野とは人生のある期間を過ごすのではなく心の持ち方をいう
バラ色の顔、くれないの唇、しなやかな手足
そう思うものは美しい問題ではない
肝心なことは、たくましく(裏切)、ゆたかな想像力、もえる情熱
そう思うものがあふれるがよいだ
こんなと湧き出る泉のように、君の精神は今日も新鮮だろうか
羅漢な精神の中に岡野はない
やすきにつく気持ちに打ち勝つ勇気と、善悪心の中にこそ
岡野はある
羅漢なの顔がある 瓶にして壺人
羅漢あるの顔がある 岡野のまっただ中
年を重ねただけで人は若い

が苦手でクラスでも孤独な存在でした。意地悪なクラスメートにからかわれることもありました。放課中も一人で本を読んでいた。

1年前、私が学校を去るとき、彼にメッセージカードをプレゼントしました。それがこれです。気取った写真ですが、孤独な彼の支えに少しでもなったのであれば満足です。この手法は、深層心理に訴える「写真による演出」「啓発カード」「リラックスカード」「名言セラピー」の応用です。

エピソード12



3年間試合をビデオに撮り続けてきたラグビー部のお別れ会がありました。最後の試合が済んだとき、私は3年間の公式戦のダイジェスト版を編集しDVDに焼いて部員たちに配りました。負けてばかりの小さな戦士たちが、最後は愛知県ベストエイトにまで勝ち進む記録です。

今日のお別れ会で、二人のお父さんが、教えてくれました。そのお父さんたちは、私の編集したDVDを単身赴任先に持って行き、落ち込んだ時には息子のがんばる姿を見て、自分を元気づけていますと。今私は、単なる思い出ビデオではない、元気の出るビデオができたことに満足しています。



